３　レポーターからの画像鑑定依頼

このページでは、みなさんの生き物調査の参考になるよう、令和２年度中にレポーターの方から質問（写真つき）や現物の提供があった生き物と、その鑑定結果について掲載しています。今年もたくさんのご質問をいただきました。レポーターの皆さん、ご回答いただいた検討委員の皆さん、ありがとうございました。

【鳥】

アオサギ

サギの中で最も大きく、ダイサギよりも大型。写真のアオサギは冠羽（※1）がなく色が淡いので若鳥と思われる。ときどき人家の屋根にも降りる。市内ではコサギが激減し、アオサギが一番多いかもしれない。

キジバト

平成30年度まで調査対象種だった。穏やかなトリで、２羽並んでいたらおそらく夫婦。オスの方がメスよりやや大きい。

ツグミ

10月頃シベリアから渡ってくる冬鳥。日本全国でみることができる冬鳥の代表的な鳥。4～5m進んでは立ち止まり、それを繰り返す。写真のツグミはかなり上を向いているがオオタカやチョウゲンボウの動きを注意していたようだ。

ヒヨドリの巣

枝や葉に巣がしっかりと固定してあること、ナイロンひもを用いていること、また大きさなどからヒヨドリの巣と鑑定した。ヒヨドリは繁殖期になると枝の上に10～20 ㎝ほどのお椀型の巣を作る。

☜花の蜜を吸うヒヨドリ

※1　冠羽…一部の鳥の頭などに生えている特徴的な飾り羽。

【植物】

コアジサイ

関東以西に分布する落葉低木。花期は６～７月で、青白い花が咲く。アジサイ類に特徴的な装飾花（萼が花弁（花びら）のように大きく発達した花）はない。ギザギザの目立つ大きな鋸歯（葉の縁にある切れ込み）が特徴。

針葉樹のこぶ病

細菌の感染や虫（寄生生物）の影響等、なんらかの刺激により、木の細胞が増殖し肥大したもの。表面がザラザラしたコブが幹や枝にできる。

トネアザミ

タイアザミとも。関東地方の山野にやや普通に見られる。花期は８～10月。茎葉（地上の茎につく葉）は 20～30 ㎝、基部は狭くなり茎を抱かない(※2)。総苞(※3)は鐘状の球形で、総苞片の先が長く反り返る。

ナツノタムラソウ？

写真だけではナツノタムラソウかアキノタムラソウか判別が難しい。咲いている花のおしべなどで見分ける。

ウラシマソウ

マムシグサ？との質問があったが、茎に赤紫色の斑が見られないこと、葉がのっぺりしていて葉のふちに波をうったようすが見られないことからウラシマソウとした。

ノハラアザミ

東北・関東地方に分布する多年草。花期は８～10月。茎葉は上部ほど小さく、基部は茎を抱く(※2)。総苞は粘らない。

※2　葉の付き方について、茎を抱く＝葉が茎に回り込んでいるもの、茎を抱かない＝葉が茎に回り込んでいないもの、を指す。

※3　総苞…タンポポなどの花の外側を包む部分のことで、多くの総苞片の集まり（花の集まりを支える土台のようなもの）。

【昆虫】

アカボシゴマダラ

外来種で急激に増えている。産卵しているところを撮影したとのこと。

アサギマダラ

自宅のフジバカマの花に来ていたとのこと。オスかメスかの判定を求められ、オスではないかとお返事を差し上げた。長距離移動する蝶として有名である。

イセリア カイガラムシ

ミカンなどの柑橘類の害虫。外来種。

オオカマキリ

調査対象種。

オオセイボウ

大きさ7～10㎜。平地から低山地にかけて見られる。幼虫はスズバチなどの巣に寄生する。足利市では稀で見つけた人は幸運である。国と県の絶滅危惧種（情報不足）。非常に美しく生きた宝石と言っても良い。

オンブバッタ

足利市に広く生息し多い。草地を好み人家の庭でもよく見られる。

オスがメスの背中にいることが多い。

カラスアゲハ

近縁のミヤマカラスアゲハが足利市北部の山地で見られることが多いのに対し、カラスアゲハは足利市の広い範囲に生息する。後バネ裏面の白い帯が幅広いのでカラスアゲハと鑑定した。

☜ミヤマカラスアゲハ

詳しくはP85参照

ガロアムシ（幼虫）

氷河時代の生き残りと言われ生きた化石とも言われている。寒さを好み冬が観察に適している。英名Ice crawlers（氷を這う虫）と言われている。日当たりの悪い湿った所を好む。足利市ではおもに北部の山地にいるが両崖山・大小山でも見つかっている。産地では少なくないが生息環境が特殊なため見つけるのが容易ではなく、よく見つけたと思う。名前は日光中禅寺湖畔で初めて採集したフランス人外交官ガロアにちなむ。栃木県を代表する虫で1924年に新種として発表された。

☜ガロアムシ雌成虫（大川検討委員提供）

キアゲハ

幼虫はセリ、ニンジン、パセリなどを食べる。日当たりの良い草地を好み市内全域に見られる。

キタテハ

幼虫の食草はカナムグラ。日当たりの良い荒れ地や草地に多い。市内どこでも見られる。

キチョウ（キタキチョウ）

幼虫はハギなどのマメ科植物を食べる。市内に広く生息し多い。遺伝子解析により日本には２種いることが判明。足利市のものは正式にはキタキチョウ。成虫で冬を越す。

キバラヘリカメムシ

成虫の大きさ 14～17㎜。ニシキギ・マユミ・ツルウメモドキなどの実を好む。足利市では見かける機会は少ない。カメムシは写真のように集団でいることが多い。

キボシカミキリ

大きさ 14～30 ㎜。幼虫はクワの仲間をはじめ各種樹木を加害する。市内各地に広く生息し多い。

クビキリギス

大きさ 60～70 ㎜。成虫で越冬する。イネ科の生える草地を好む。市内に広く生息する。春先の暖かい夜にはジーーーと鳴いているのを聞くことができる。

クルマバッタ

大きさ 40～60 ㎜。草地を好み市内全域に生息する。成虫は7～11月にかけて見られる。

クロコガネ

大きさ 17～22 ㎜。市内全域に生息し多い。成虫は 5～7月頃出現。人家の庭などにもいる。足利市にはこの仲間が3種いて、互いによく似ている。

クワカミキリ

30～52 ㎜と大型。クワやイチジクを加害する。見かける機会は少ない。

コハナバチの一種

この仲間は多くの種類がいて似たものが多く名前までは分からなかった。春から夏にかけて各種花に集まる。大きさ 10 ㎜前後。

サトクダマキモドキ

大きさ 45～62 ㎜。平地や山地（足利市では平地との境の山沿い）の樹上にいる鳴く虫。足利市にはヤマクダマキモドキもいるが後者の方が多い。

サビキコリ

大きさ 12～16 ㎜。コメツキムシの仲間。市内全域の各種環境に多い。〇〇キコリというコメツキムシは足利市から 6種知られている。

シオカラトンボ（メス）

最も多いトンボの一つ。市内各地にいる。メスはムギワラトンボとも言う。

ショウリョウバッタ（幼虫）

メスは大きさ 80 ㎜にも達する。成虫は８～11月頃にかけて明るい草地に普通に見られる。市内全域に生息する。オスはキチキチキチと飛び、別名キチキチバッタとも言われる。

セイヨウミツバチ

各種花に多い。

センノキカミキリ

タラノキにいたとのこと。大きさ 26～36 ㎜と大型。幼虫はハリギリ（センノキ）、ヤツデ、タラノキを加害する。市内山地に広く生息するものと思われるが見かける機会は少ない。

ダイコンハムシ

大きさ４㎜前後。アブラナの仲間を加害するハクサイやダイコンの害虫。成虫は春から秋にかけて見られる。足利市全域に生息している。

ナガメ

大きさ 6.5～9.5 ㎜。菜の花などのアブラナの仲間に多い。市内全域でよく見られる。

ナナホシテントウ

調査対象種。

ナミテントウ

大きさ 4.7～8.2 ㎜。遺伝的な斑紋の変異がある。足利市内全域に生息し非常に多い。

ノミバッタ

大きさ４～６㎜と小さい。やや湿った裸地を好みたいへん多い。人家の庭先にもよく見られる。

ハイイロヤハズカミキリ

11～19 ㎜。幼虫は枯れたタケ類を加害する。足利市には広く生息するものと思われるが見かける機会は少ない。渡良瀬川での記録もある。

ハマオモトヨトウ（幼虫）

分布北上中の蛾で栃木県でも1995年頃以降記録がある。幼虫はヒガンバナの仲間ならなんでも食べる。成虫は移動能力が高く、温暖化に伴い今後増えることが予想される。

ヒナバッタ

大きさ19～30㎜。明るい草地に普通に見られる。市内全域に生息する。オスはジュルジュルジュルと鳴く。

ヒメウラナミジャノメ

幼虫はイネ科、カヤツリグサ科を食べる。明るい草地を好み市内全域に非常に多い。

ヒメカメノコテントウ

大きさ3～4.5㎜。平地から山地にかけて多い。人家の庭でも良く見られる。

ヒメギス（メス）

大きさ17～22㎜。キリギリスよりも小さい。湿った草地を好む。足利市には広く生息するがいるところはやや限られる。

ヒメナガカメムシ

大きさ5㎜前後。イネの仲間の穂や各種植物の花などにたいへん多い。足利市全域に生息している。ダイコンハムシと一緒にいた。

フクラスズメ（幼虫）

イラクサ・カラムシなどの葉を食べる。敵の気配を察すると激しく体を揺する。市内全域に生息し普通に見られる。成虫で冬を越す。

ベダリアテントウ

大きさ 3.3～3.8 ㎜。台湾から導入されたイセリアカイガラムシの天敵。栃木県からの正式な記録は少ない。

マドガ

ハネを広げた幅が 1.5㎝と小さな蛾で昼間活動する。明るい草地に見られる。市内全域に見られるが、注意しないと存在に気づかない。成虫は4～9月にかけて現れる。

マユタテアカネ（メス）

市内全域に生息するが少なくなってしまった。顔に眉のような黒い紋があるのでこの名がついた。

ミドリヒョウモン

幼虫はスミレの仲間を食べる。山沿いによく見られる。足利市ではツマグロヒョウモンに次いで多い。写真は暗化型のメスと思われる。

ミヤマアカネ（メス）

市内全域に生息するが少なくなってしまった。

ミヤマカラスアゲハ

足利市ではおもに北部山地に見られるが少ない。写真は吸水しているところ。幼虫はキハダ、コクサギ、カラスザンショウなどを食べる。カラスアゲハに似るがより金属光沢が美しい。

モンスズメバチ

小型のスズメバチ。渡良瀬川など平地を中心に見られる。国の絶滅危惧種（情報不足）であるが足利市では少なくない。

ヨトウガの一種の幼虫

作物の害虫として知られるヨトウガ（夜盗蛾）の幼虫。夜盗虫とも言われる。

ルリマルノミハムシ

大きさ3.2～4㎜。各種花に集まり足利市の各地に多い。後足の腿にあたる筋肉が発達し良く跳ねる。

【水辺の生き物】

オオクビキレガイ？

殻頂部が欠け、外来種のオオクビキレガイに似るが、貝の巻き方が逆なため、キセルガイの仲間の可能性が高い。

メダカ（クロメダカ）

野生のメダカで、小川や田んぼ、池などに生息している。

タイワンシジミ

在来種のマシジミによく似ている。マシジミは少し色が濃く丸みがあり、頂上部のはげ方ももう少し範囲が広い。

ヌマガエル

体長3～5㎝。おもに水田や河川の近くなどの水辺にいる。おなか側は白く、模様がない。

【クモ】

オオシロカネグモ？

大きさ8～12㎜。山間の水辺などに網を張る。足利市でもこのような環境で見られる。この仲間は数種いて種名の確定はできなかった。

オスクロハエトリ（メス）の成体に近い幼生

大きさ7～9㎜。水辺の環境に生えるオギやヨシ・ススキの葉上にいる。足利市でもこのような環境を探せば見ることができる。オスとメスとでは色彩が異なる。写真は成体と一致せず、成体に近い幼生とした。

オナガグモ

大きさ12～30㎜。山の縁などに見られる。存在に気がつかないが足利市の山地には広く生息する。クモを食べるクモとして有名。

シロカネイソウロウグモ（オス・メス）

大きさ3㎜ほどの小さなクモ。ジョロウグモ、オニグモ、コガネグモの巣に居候している。なかなか目につかないクモであるがレポーターさんはよく見つけたと思う。

ナガコガネグモ

大きさ8～25㎜。メスはオスより大きい。草原・水田・林の縁などに網を張る。市内に広く普通に生息する。

マミジロハエトリ？（オス）

大きさ6～8㎜。色々な環境に広く生息し多い。オスとメスとでは色彩が異なる。

【キノコ・その他】

カワラタケ

主に広葉樹の枯れ木や切り株などに見られるタマチョレイタケ科のキノコ。硬さが特徴で食用には向かない。色のバリエーションが豊富。

カンゾウタケ

シイなどの広葉樹の根元付近に生える。カサの直径は 10～20 ㎝ほど。形や色が肝臓に似ているためこの名がついた。

ツルタケ？

夏から秋にかけて林内の地上に発生する。根元部分にツボがあるキノコの仲間。

ウスカワマイマイ

人家近くの庭園や農耕地に非常に多い。

名前がわからない生き物を見つけたら？

市環境政策課にご質問をお寄せください！
検討委員の先生方に鑑定していただき、
回答します。
あなたの質問が貴重な発見につながるかも？

質問のしかた

次のことに気を付けて
よく観察してください。

①いつ　②どこで
③大きさ　④色
⑤鳴き声、飛び方などの特徴

市環境政策課にメール・手紙・電話等で
これらの情報とともに
ご質問をお寄せください。
（連絡先は裏表紙の裏側をご確認ください。）

写真があると
より鑑定しやすいので
可能な場合は撮影し、
写真も一緒にお送りください。

※お寄せいただいた写真は、報告書の表紙等に掲載させていただく場合がございますので、ご了承ください。